サービス学会
活動報告・表彰式・意見交換

- 16時00分から開始いたします。今しばらくお待ち下さい。
- 活動報告・表彰式の様子は録画され、会員に対して公開いたします。
- 表彰者・説明者以外の方々は、映像オフ、マイクミュートの設定にてお願い致します。
- 本資料は、学会HPのトップページからダウンロードいただけます。

2024年6月7日

Society for Serviceology

Society for Serviceology

サービス学会の概況報告

持丸 正明（会長）

第5代会長として

▶方向性

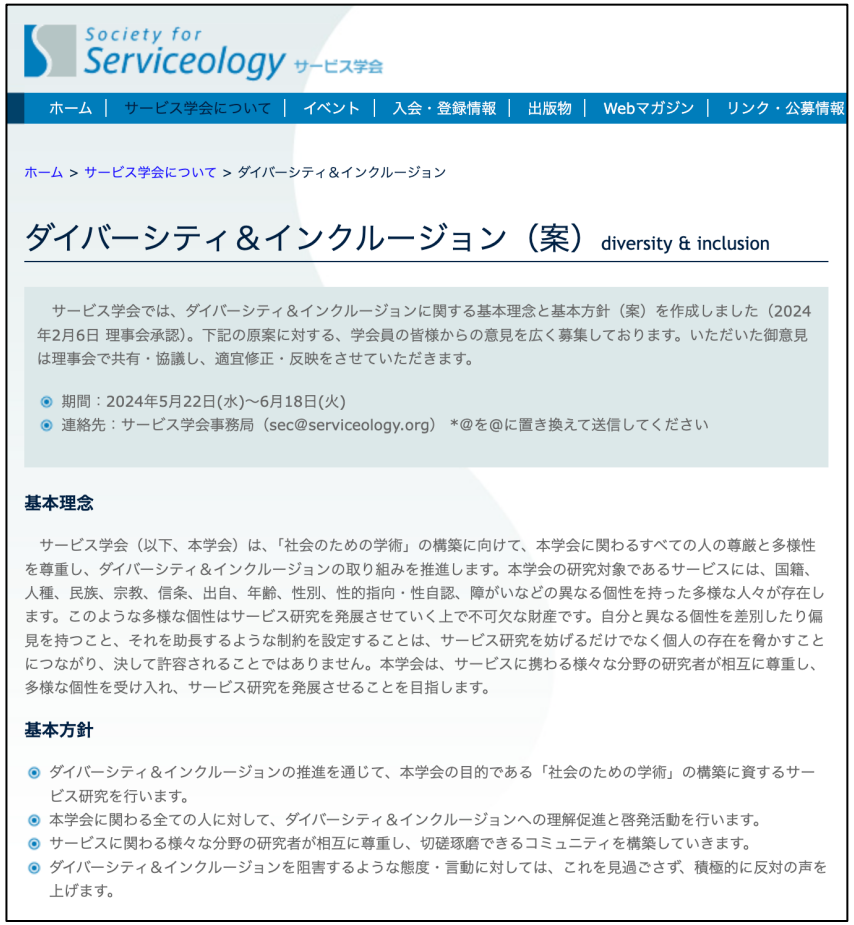
- サービス学とはなにか（学術的な深化）
- 社会および経済のサービスに関わる活動
  （社会と実業への貢献）

▶アクション

- 文理融合
- 産学連携
- 国際連携 ※欧州・アジア国際会議への参加
- 会員増 ※安定的な財務経営へ
  - 学生会員→正会員、協賛企業→賛助会員

▶行動指針

- ダイバーシティ＆インクルージョンに関する学会の基本理念
  → 学会WEBページ掲載、現在はパブリックコメントを受付中



Society for Serviceology サービス学会

ホーム | サービス学会について | イベント | 入会・登録情報 | 出版物 | Webマガジン | リンク・公募情報

ホーム > サービス学会について > ダイバーシティ＆インクルージョン

ダイバーシティ＆インクルージョン（案） diversity & inclusion

サービス学会では、ダイバーシティ＆インクルージョンに関する基本理念と基本方針（案）を作成しました（2024年2月6日 理事会承認）。下記の原案に対する、学会員の皆様からの意見を広く募集しております。いただいた御意見は理事会で共有・協議し、適宜修正・反映をさせていただきます。

- 期間：2024年5月22日(水)～6月18日(火)
- 連絡先：サービス学会事務局（sec@serviceology.org） *@を@に置き換えて送信してください

基本理念

サービス学会（以下、本学会）は、「社会のための学術」の構築に向けて、本学会に関わるすべての人の尊厳と多様性を尊重し、ダイバーシティ＆インクルージョンの取り組みを推進します。本学会の研究対象であるサービスには、国籍、人種、民族、宗教、信条、出自、年齢、性別、性的指向・性自認、障がいなどの異なる個性を持った多様な人々が存在します。このような多様な個性はサービス研究を発展させていく上で不可欠な財産です。自分と異なる個性を差別したり偏見を持つこと、それを助長するような制約を設定することは、サービス研究を妨げるだけでなく個人の存在を脅かすことにつながり、決して許容されることではありません。本学会は、サービスに携わる様々な分野の研究者が相互に尊重し、多様な個性を受け入れ、サービス研究を発展させることを目指します。

基本方針

- ダイバーシティ＆インクルージョンの推進を通じて、本学会の目的である「社会のための学術」の構築に資するサービス研究を行います。
- 本学会に関わる全ての人に対して、ダイバーシティ＆インクルージョンへの理解促進と啓発活動を行います。
- サービスに関わる様々な分野の研究者が相互に尊重し、切磋琢磨できるコミュニティを構築していきます。
- ダイバーシティ＆インクルージョンを阻害するような態度・言動に対しては、これを見過ごさず、積極的に反対の声を上げます。

© Society for Serviceology 2024

状況と課題

▶日本の学会活動を取り巻く状況

- 国際会議や論文に対する業績評価の変化
- 少子化、博士進学者減少に伴う「日本の国内学会のあり方」の議論
- 学会の財務状況の悪化
- 若手少数研究者への学会業務の集中

▶サービス学会の課題

- 若手の中核的会員数が伸び悩んでおり、一部会員に業務が集中しがち
- 国内大会、国際会議（ICServ）、マガジン、ジャーナルなどのあり方を、再検討する
- これらの陣頭指揮を執る会長、副会長、理事の選出方法の再検討
- 学会重要議案を決裁する代議員制の再検討
- 法人化の検討（代議員制と関連あり）

© Society for Serviceology 2024

理事会(役員)と代議員 ＊24年6月～25年6月

▶ 理事会

役　職		氏　名	所　属
理事	会長	持丸 正明	産業技術総合研究所
	副会長	戸谷　圭子	明治大学
		原 良憲	京都大学
	事務局担当	原 辰徳	東京大学
	総務	幸島 明男	産業技術総合研究所
	経営戦略	細野 繁	東京工科大学
	財務	青砥 則和	NECソリューションイノベータ株式会社
		野中 朋美	早稲田大学
	国内	木村 好孝	日本電気株式会社
		石川 竜一郎	早稲田大学
		西村 拓一	北陸先端科学技術大学院大学
	出版	増田 央	京都外国語大学
		根本 裕太郎	横浜市立大学
	事業企画	椿 美智子	東京理科大学
		手塚 和宏	サービス産業生産性協議会
		松井 拓己	松井サービスコンサルティング
	国際	Spring Han	京都大学
		蔵田 武志	産業技術総合研究所
監事		日髙 一義	東京工業大学
		山本 昭二	関西学院大学
		菊地 唯夫	ロイヤルホールディングス株式会社

▶ 代議員（22名）

氏名	所属
藤岡 昌則	三菱重工業株式会社
近藤 朗	鹿児島女子短期大学
鈴木 雅彦	東日本旅客鉄道株式会社
堤 崇士	グロービス経営大学院
神田 正樹	京都先端科学大学
高橋 昭夫	明治大学
山崎 朋子	日本規格協会
渋田 一夫	宮城大学
杉原 太郎	東京工業大学
本田 路子	国際観光ホスピタリティ総研株式会社
赤坂 文弥	産業技術総合研究所
善本 哲夫	立命館大学
和田 一義	東京都立大学
水山 元	青山学院大学
矢ケ崎 紀子	東京女子大学
田平 博嗣	株式会社U'eyes Design
錦織 浩志	株式会社MS＆Consulting
舩先 康平	サービス産業生産性協議会
山本 吉伸	福知山公立大学
神保 雅人	千葉商科大学
Ho Quang Bach	産業技術総合研究所

© Society for Serviceology 2024

サービス学会 第13回国内大会

- **期日：**2025年3月4日(火)～ 6日(木)
- **会場：**立命館大学 大阪いばらきキャンパス
- **テーマ(案)**：地域創生へのシナリオ
  –サービス共創に向けたトランスディシプリナリ–
- **開催形態：**対面開催
- **大会実行委員長：**善本 哲夫
  （立命館大学）
- **プログラム委員長：**持丸 正明
  （産総研/立命館大学）

© Society for Serviceology 2024

サービス学会・国際会議 ICServ 2025

- **期日：**2025年12月1日(月)～3日(水)
- **会場：**ストックホルム商科大学
- **開催形態：**対面による開催
- **大会実行委員長：**Prof. Patrik Ström (Stockholm School of Economic)

© Society for Serviceology 2024

Webマガジン：サービソロジー

- **年間総ビュー数：26,605**
- **2023年度特集テーマ**
  - 地方の活性化
  - 多様なコミュニケーション
  - サステナビリティとサービス
  - 文化とサービス
- **2024年度特集予告**
  - ヘルスケア、従業員とデジタルツール、多様なコミュニケーション、サービスデザインの浸透と組織

https://magazine.serviceology.org/

© Society for Serviceology 2024

ジャーナル（論文誌）

▶2023年（1-12月）掲載状況

- Journal of Serviceology（英文誌）
  - Original Paper：0件
  - Research Note：1件
- サービス学会論文誌（和文誌）
  - 原著論文：3件
  - 実践論文：0件
  - 研究ノート：1件

Research Note
- Customer Experience Management
  – a guided Framework for Qualitative Research

原著論文
- 音楽ストリーミングサービスで配信された楽曲の特徴量を用いた音楽嗜好性の国際比較
- サービス設計と実装の統合をめざしたフレームワークの構築と評価: サービスロボットを伴うサービスデザイン実践
- 顧客のありがた迷惑行動を規定する要因に関する探索的研究

研究ノート
- 遅効性サービスにおける結果予期の維持

▶2024年度の予定

- サービス学会実践レポート「サービスプラクティス」刊行
- サービスの実践から得られた知見を広く社会発信（≠査読付論文）
- 4月から応募開始（http://ja.serviceology.org/publish/service_practice.html）
- 投稿/採択数増加、出版早期化のための取り組み（査読基準等）

© Society for Serviceology 2024

SIG（Special Interest Group）

▶ SIGとは

- サービス学会員が**特定の興味を持つ分野についてグループ**を作り、
  研究状況や実施事例などの**情報交換を行う場**。
- 活動期間は原則として、設置が承認された日から原則2年間（４月～３月を１年間とする）。

▶ これから企画される方へ

- **文理、産学の融合**を目指した（、既存のSIGと重複しない）テーマを提案頂くことが理想です。
- 議論や研究の成果をぜひサービス学会の年次大会・論文誌等で共有してください。
- その他、詳しくは**学会HPのSIG紹介**をご覧ください。
  http://ja.serviceology.org/sig/

▶ 御関心のある方へ

- SIGへの参加は原則として学会員に開かれているものですが、
  個別のSIGに応じて運営上の考えが異なる場合があります。
- SIG活動では、できるだけ**積極的にメンバーと価値共創する意識**をお持ちいただきますよう、
  お願いいたします。

© Society for Serviceology 2024

2024年度のSIG

継続 (名称変更したSIGを含む)

- Practice SIG : 実学・ウェルビーイングサービス研究会
- Education SIG : AI教育サービス
- Supply chain SIG : グリーン社会の実現を目指したSCMの創成
- Sustainability SIG : SDG’s Innovation
- Tourism SIG : ツーリズム・イノベーションと価値共創
- Paradigm SIG : サービス・ドミナント・ロジック研究

ご関心のある方は学会HPから各SIGの担当者にお問い合わせください

© Society for Serviceology 2024

Society for Serviceology

副会長選挙、将来構想検討WGについて

審議してきた2つのアクション

▶会長、副会長の選出方法の見直し

- 副会長(2年)→会長(2年)→副会長(2年)のサイクルは維持
- 新任副会長の選出を、会員による直接選挙に
- 選挙制度整備のため現執行部（会長、副会長）の任期を1年延ばし、2025年6月に副会長選挙を実施
- 2025年6月の新会長の信任投票実施についても併せて検討
- その後、理事の選出方法、代議員制の見直しも継続検討
- これらについて、拡大総務委員会を開催して、意見聴取してきた

▶将来構想検討WG

- 現執行部（会長、副会長）の延長任期の期間中に、自薦・他薦に基づいて、「将来構想検討WG」を発足して議論を進める
- 国内大会、マガジン、ジャーナルなどのあり方も含めて検討する
- 検討会の提言については、WEB等で公開し、理事会としてこれに対するアクションを回答する

© Society for Serviceology 2024

（詳細）選挙制度、将来構想検討の背景

▶会員数、年齢構成の課題

- 学生会員無料化などの施策をとるも、正会員数は伸び悩み
- 特に、40歳未満の若手会員でアクティブに活動する会員数が少ない

▶国内学会の意義づけの変化

- 国際学術活動が重視される中で、国内学会の意義、役割の再考
- 国内大会などのエフォート・パフォーマンスの考慮と位置付けの検討
- 10年を経てもH-indexやI/Fの無い国際会議、国際誌の位置付けの検討

▶設立10年を経て、新たな時代を率いる学会長選出のあり方

- 成熟した学会では会長選挙（直接選挙）を行うのが一般的
- 設立10年を経て、サービス学会もそれを検討すべき時期では？
- 上記の課題を踏まえて新たな時代を率いる学会長の選び方

© Society for Serviceology 2024

（詳細）会長・副会長選挙に関する議論の経緯

- **理事会での議論開始（2023/11）**
  - 「いま」選挙制度改革をすべきか？
- **拡大総務委員会での議論（2023/12/13, 12/20）**
  - 選挙制度改革の背景、現状の説明、想定される選挙制度の選択肢
  - 副会長2年→会長2年→副会長2年の6年サイクル維持の是非
- **総務委員会での選択肢、スケジュールの検討とPros/Consの整理**
  - 他学会の事例分析と選挙制度の選択肢、スケジュールの検討
  - どのようなリスクがあるかの整理
- **第12回国内大会での会長からの経緯説明（3/6）**
- **理事会での議論（3/22, 5/21）**
- **拡大総務委員会での経緯報告と意見交換（5/30）**
- **総会での議決（6/7）** ← いまここ

© Society for Serviceology 2024

（詳細）考慮したポイント

▶**選挙権、被選挙権**

- できるだけ幅広く選挙権、被選挙権を与えたい

▶**適正で公正な選挙**

- 候補者の目指すものや経歴（これまでの学会活動）を選挙権を持つ会員に提示し、適正で公正な選挙が行われ、会員も納得できる結果になるようにしたい

▶**コスト、負担について**

- 小さい学会であるので、選挙に掛かる手間、コスト、期間を抑えたい

▶**持続可能性について**

- 立候補者がいないという状況に陥らないようにしたい

▶**派閥対立の抑制**

- 学術分野間や組織間で選挙を巡る対立が起きないようにしたい

© Society for Serviceology 2024

（詳細）副会長選挙に関する理事会案

- **会員直接投票で副会長選挙を行う**
  - 副会長2年、会長2年、副会長2年の6年サイクル維持
  - 選挙で選ばれた副会長が次期会長となる
- **すべての正会員が選挙権を持つ／在籍期間が3年以上の正会員が被選挙権を持つ**
  - 代議員経験などを問わない
- **副会長選挙委員会を設置する**
- **理事会推薦、他者推薦もすべて立候補のかたちとする**
  - 立候補時点で本人同意があり、選挙で選ばれても辞退しない
- **立候補者は副会長、会長になった場合の経営指針と学会活動経歴を提示**
- **代議員選挙と同様の方式で、会員による電子投票を実施**
- **立候補者が1名の場合は信任投票とする（有効投票数の過半数で信任）**

© Society for Serviceology 2024

（詳細）移行期の会長信任投票に関する案

▶現会長・副会長任期の1年延長

- 副会長選挙制度の策定、並びに、学会の将来構想検討WGの発足とWGからの諮問の公表と学会運営への反映について、1年間で責任を持って行う
- 本来、2024年6月までの任期を2025年6月まで延長する

▶次期会長の信任投票

- 2025年6月に現会長が副会長となり、新たに次期会長が就任する
- 次期新副会長が選挙で選任されるのに対して、次期会長は選任過程がなく、副会長2年・会長2年・副会長2年のサイクルで次期会長に就任することになる
- この移行期に限り、次期会長の信任投票を実施する

© Society for Serviceology 2024

Society for Serviceology

表彰式
（学会活動貢献賞）

表彰規程（学会活動貢献賞）

▶ 2017年1月30日制定, 2023年1月24日 改定

…

▶ **第３章　学会活動貢献賞**

- 第１６条　学会活動貢献賞は、本会の特定分野の運営、または会員サービスの向上等に関して、顕著な貢献を行った個人、または組織に贈呈する。
  ２．学会活動貢献賞を受ける者は、非会員であっても差し支えない。また、貢献内容が異なるものであれば、同一人が重ねて受賞しても差し支えない。学会活動貢献賞を受ける者が、組織の場合には、その代表者１名とする。
- 第１７条　学会活動貢献賞の選考委員会は、総務委員会をあてる。
- 第１８条　学会活動貢献賞は、毎年３件以内を選定する。
- 第１９条　学会活動貢献賞の受賞に対し、賞状および賞牌を贈呈する。

…

© Society for Serviceology 2024

学会活動貢献賞の受賞者

日髙一義 殿*

- **「サービス学会初の学会活動におけるグランドスラム貢献」**
  - 日髙一義氏は、サービス学会における主要な活動のすべてを務められた。初代出版委員長として、ジャーナル、マガジン双方を担当し、その立ち上げに貢献した。ジャーナルにおいては初代のEditor in Chiefを務めてサービス学としての査読基準の設定に大きく貢献した。その後、副会長を経てサービス学会長を務めるとともに、その間に、第7回国内大会（2019年）の大会長、さらに、ICServ2023のChair of Organizing Committeeを務めた。
  - これらのポストにおける活動を通じ、サービス学会のマガジンとジャーナルの確立、サービス学会の拡大、会員相互の交流、国際的な連携推進に大きく貢献した。これはまさにサービス学会初の学会活動におけるグランドスラムである。
  - 以上の功績から、日髙氏は学会活動貢献賞の贈賞に相当する。

© Society for Serviceology 2024

学会活動貢献賞の受賞者

白肌 邦生 殿*

- **「SIG(Special Interest Group)の体系化と活動促進への貢献」**
  - 白肌邦生氏は、SIGとその活動について、従来の仕組みを踏まえた上で位置づけを見直し・再定義するとともに、SIGの立ち上げおよび活動終了の定型化、SIG活動のサポートや活動状況の情報収集と報告など、その体系化に取り組まれた。
  - 活動中のSIGによる国内大会での発表やOS(Organized Session)の設置、またOSを起点とした新たなSIGの立ち上げなど、他の学会活動との連動も継続的に行われるようになっており、サービス学会内で特定のトピックとその議論が会員間に浸透しやすい環境を生み出し、研究の発展にも貢献している。
  - 以上の功績から、白肌邦生氏が学会活動貢献賞の贈賞にふさわしい。

© Society for Serviceology 2024

Society for Serviceology

将来構想検討WG（仮）＆意見交換会

持丸正明
（サービス学会 会長）

将来構想検討WG発足に関する会長案

▶国内学会のあり方、位置付け

- 国内学会ならではの意義はなにか
- 限られたエフォートで意義を大きく発揮させるにはどうすればよいか
- 具体的な検討項目案
  - 国内大会の位置付け、運営（現地実行委員会＋理事会プログラム委員会体制）
  - 国際会議（ICServ）の位置付け、運営（以前に行ったWGの議論結果の再考）
  - ジャーナルの意義、あり方

▶学会活動の活性化、会員の巻き込み

- 学会活動の魅力はなにか
- どうすれば非会員や非アクティブ会員に魅力を伝えられるか
- 具体的な検討項目案
  - SIGの活動、運営
  - その他の活動（セミナー、マガジンなど）

© Society for Serviceology 2024

http://ja.serviceology.org/

© Society for Serviceology 2024